

対象学年: 第5学年以上
領域・単元等 「聞くこと」「話すこと[発表]」

1. 作成の趣旨

本県では、「英語で自己紹介ができる」児童生徒の育成を目指しています。そこで、言語活動を通して学んだ表現等を用いて自己紹介をする場面を設定し、「聞くこと」と「話すこと」を統合した問題を作成しました。

【関連する学習指導要領の内容】

- 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。
5, 6年「聞くこと ウ」
- 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。
5, 6年「話すこと[発表] イ」
- 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。
5, 6年「話すこと[発表] ウ」

2. 活用場面等(例)

例【学年末のパフォーマンステストとして】〈第5・6学年 2月末～3月〉

【留意事項】

- 音声について: ALTや英語担当教員の読み上げを想定
- 英文や設定時間等: 各学校の実態等に応じて、変更することも可能
- 実施に当たって: 「話すこと」の問題では、児童が考えを整理する時間を十分に確保

【活用後について】


- 既習表現の活用に課題があった場合は、必要な語彙や表現の確実な定着に向けて十分な練習時間をとりましょう。その後再度練習した表現等を活用する場面を設定しましょう。

3. 「話すこと(発表)」の授業の充実に向けて

- 言語活動では、児童同士、教師(ALT)と児童のやり取りを通して児童に語彙や表現、話す内容などについての気付きを促し、コミュニケーションの目的等に応じて適切に発話できるように支援しましょう。

活動1

Hello, I'm ○○.
I'm from Aso city.
①You eat *takana*.
②Delicious!
③……(「赤牛丼が大好きです。」って言いたいんだけど…)



中間指導のポイント(例)

①「…できるよ、と言いたい時はどんな言葉をつかったかな?」と問いながらcanを引き出す等、場面に応じた正しい表現に気付かせる。
②単語だけの発話は、文で表現できるようにする。
③既習事項を活用して伝えたい内容を表現させる。

中間指導では、確認した後、それらを活用できるようになるまで練習する時間を取ることが大切です。

活動2

Hello, I'm ○○. I'm from Aso city. **Aso is nice.**
①You **can** eat *takana*.
②**It's** delicious.
③**My favorite food is Akaushi-don.**
Do you know **Akaushi-don**?

